



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	丸福製茶株式会社 新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	---------------	-----	-----	--------	----	----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9	/5	ふつう
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	2.6	/5	がんばろう
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5	ふつう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5	がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目についての環境配慮概要	内訳対応項目	
	得点	3.9
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		
■室内環境対策 ((①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④長寿命の内装仕上げ材の採用。 ④耐久性に優れた設備配管の採用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 星光利用設備 星光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要な内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 ((⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤環境省が示す「生態系被害防止外来種リスト」に記載された定着予防外来種、総合対策外来種を導入しない。 ⑥空地率62.99%を確保した。	Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥	生物環境の保全と創出 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 ((⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑨LED照明の採用。 ⑨高効率空調機の導入。	LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩	建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 ((⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水機能に優れた節水型機器の採用。 ⑪グリーン購入法適合品を採用した。 ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能。 ⑬ODP、GWPに優れた断熱材の採用。	LR-2 1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬	節水 雨水利用システム導入の有無 雑排水等利用システム導入の有無 材料使用量の削減 既存建築躯体等の継続使用 躯体材料におけるリサイクル材の使用 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み 有害物質を含まない材料の使用 消火剤 断熱材 冷媒
■敷地外環境対策 ((⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯省エネルギー対策により、LCCO2排出率は参照値に対して81%。 ⑯主風向に対する見付面積比を40%未満とした。	LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	地球温暖化への配慮 温熱環境悪化の改善
"災害に強いしづおか"の形成 (Disaster)	得点	2.6
■サービス性能対策 ((⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰節水型器具(節水型便器)を採用。 ⑰地下空間無し。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	耐震性 免震・制振性能 空調・換気設備 給排水・衛生設備 電気設備 機械・配管支持方法 通信・情報設備
"しづおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	得点	3.3
■サービス性能対策 ((⑯機能性・使いやすさ/⑯心理性・快適性/⑰空間の中とり) ⑯余裕のある階高とした。 ⑯空間的自由度の向上。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑯ 3 3.1 3.1.1 ⑯ 3.1.2 ⑯	ユニバーサルデザイン計画 階高の中とり 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 ((⑯地域性・アメニティへの配慮) ⑯街並みに配慮し、敷地周囲に視線を遮るような連続した塀を作らない。	Q-3 3 3.1 ⑯	地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	得点	2.5
■室外環境(敷地内)対策 ((⑤生物環境の保全と創出/⑯まちなみ・景観への配慮/⑯敷地内温熱環境の向上) ⑯空地率62.99%とした。	Q-3 1 ⑤ 2 ⑯ 3 3.2 ⑯	生物環境の保全と創出 まちなみ・景観への配慮 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 ((⑯持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) ⑯主風向に対する見付面積比を40%未満とした。	LR-2 2 2.5 ⑯ LR-3 2 2.2 ⑮	持続可能な森林から産出された木材 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

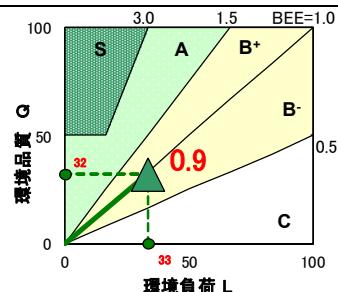
1-1 建物概要

建物名称	丸堀製茶株式会社 新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市下垂木3061-1他11筆	構造	S造
用途地域	用途地域、防火地域指定なし	平均居住人員	27人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,968時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2021年10月30日
敷地面積	8,824 m ²	作成者	大橋 隆夫
建築面積	2,525 m ²	確認日	2022年6月●日
延床面積	2,984 m ²	確認者	○○○

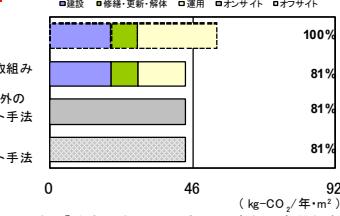
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

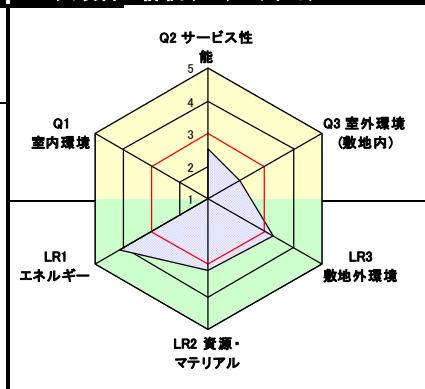
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので
す

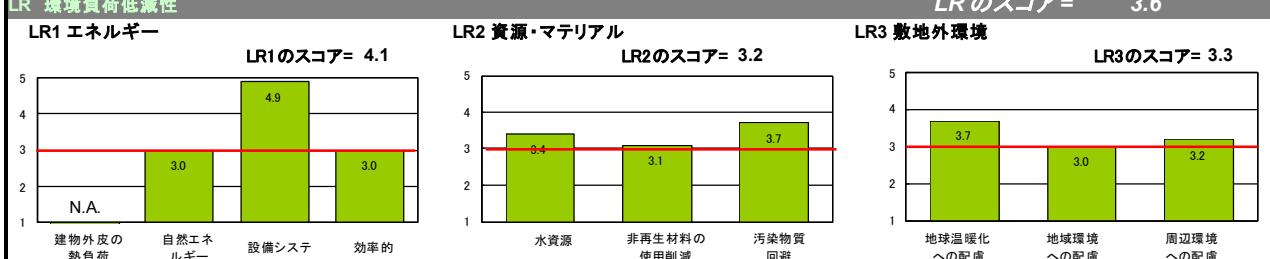
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



LR 環境負荷低減性



3 設計上の配慮事項

Q1 室内環境 評価対象外。	Q2 サービス性能 空間にゆとりを持たせることによって、機能的で使いやすい空間と するとともに将来の変化にも対応できるよう配慮している。 また、仕上材に耐久性の高いものを採用し、更新必要間隔を長期化させた。	その他 特になし
LR1 エネルギー LED照明など高効率な設備機器を採用してエネルギーの削減 を図っている。	LR2 資源・マテリアル 外壁の仕上材にガルバリウム鋼板や薫業系サイディング等、軽体 と容易に分別できる建材を採用した。	Q3 室外環境(敷地内) 外部仕上等の色彩において、周辺の街並みや風景にバランスよく 調和させている。
LR3 敷地外環境 地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に 取り組んでいる。		LR3 敷地外環境 地球温暖化対策や大気汚染防止に努めて、環境負荷の低減に 取り組んでいる。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい